

循環器系疾患の機能検査に理学的方面よりの新しき方式と知見とを加へた。

先づ脈波については、或は創意の装置を用ひ、或は装置に改良を加へた。即ち光線楯杆による寫眞法、或は高周波電流、又はピエゾ電氣を利用し、或は熱線風速計を應用して、脈波を正確精細に記録し得た。又透過赤外線を利用し、末梢部の脈波を描いた。電媒常数を利用して心嚙図或は脈波圖を描き、次いで身体々表の微動を擴大記録する電氣容量脈波計を創め、之を以て心尖部、心嚙部の搏動、或は血管について其脈波を描いた。又、左右不同脈波を臨床上の診断に用ひた。

心音並に血管音の音圖の研究に、電氣的装置の方式を研究改良して、或は聽覚忠実、或は振幅忠実なる圖形を描いた。此の目的の爲に、一般にマイクロフォンの持つ欠点なる固有振動を全く除去するため、電氣容量を利用して体表の音振動を其儘に擴大記録した。此の收音装置は人の食道より、心音、心搏動、大動脈の脈波をも正確に描く事が出来る。斯くして得た心音等の圖形を他の圖形と比較考究し、又実験的に原音を再生して考証した。以上の各観測は、各種疾患に就きて行はれ、病態現象の本態を詳かにし、以て之を循環器系疾患の機能検査に用ひて、診療の指針たらしめたものである。